

オーディオ実験室収載

アースアキュライザーの導入(3)(HP 収載) ーフォノケーブルアースと仮想アースの接続(1)ー

1. 始めに

前報(2)に引き続き、フォノケーブルアースと仮想アースの接続に使用してみます。

2. アースアキュライザーEA-1 の試聴計画

前報(2)では、フォノイコライザーの ZANDEN Model 120 と光城精工の仮想アース Crystal E との接続に使用しましたが、フォノケーブルのアースと仮想アースの接続に使用してみます。

アナログシステムは、LINN LP-12 であり、LINN LP-12 のフォノケーブルのアース線と Crystal E の間にアースアキュライザーを介在させて接続してみます。従ってアース線は余分な長さになっており、果たしてアースアキュライザーの効果が出るのかがポイントです。なお、ZANDEN Model 120 と Crystal E の接続は、元の光城精工のアースケーブルに戻しています。

音源は下記を使用します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

EMI AA 9117・C

フリードリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. アースアキュライザーEA-1 の試聴結果

LINN LP-12 のフォノケーブルのアース線と Crystal E の間にアースアキュライザーを介在させて接続した結果は次のとおりです。

バッハの Sonatas & Partitas は、フォノケーブルのアース線にアースアキュライザーを継ぎ足しますと、確かに、解像度が増し、ボウイングの様子が、より丁寧にな

ったように感じますが、前報(2)のフォノイコライザーと Crystal E とのアースケーブルの交換ほどではありません。

ベートーヴェンの選帝侯のソナタは、余分な響きが後退し、タッチがクリアになったように感じますが、前報(2)のフォノイコライザーと Crystal E とのアースケーブル交換ほどではありません。

ワーグナーのワルキューレは、前報(2)では、「解像度が上がり、取り分け低域がクリアになり、ソプラノやメゾソプラノ位置がはっきりしてきます。」と記載しましたが、解像度が上がり、一音一音が明瞭になることは確かですが、変化の程度は限定的です。

ヘンデルのメサイアは、前報(2)では、「合唱の分離と協和が向上し、通奏低音も明瞭かつ量感が増し、弦楽のパートがソフトになりソプラノとバスの歌唱も声の質感が向上します。」と記載しましたが、確かにそのような変化の方向性はあるのですが、変化の程度は限定的です。

以上のように、フォノケーブルのアース線全部を取り換えたわけではなく、継ぎ足しただけですので効果が限定的であったと思われます。

4. まとめ

LP-12 のアナログ再生において、フォノケーブルのアース線と光城精工の仮想アース Crystal E との接続にアースアキュライザーを継ぎ足す効果を認めましたが、前報(2)のフォノイコライザーと Crystal E とのケーブル交換ほどではありません。

以上